

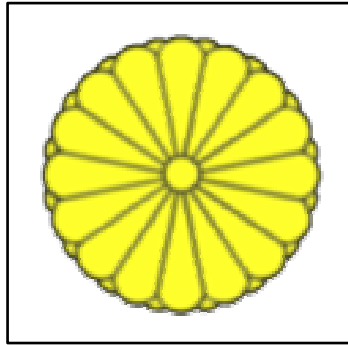
祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎 REIMEI 明 報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0021号
護國青年會議 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成18年1月28日

【皇位継承】万世一系の皇統を守ろう【男系維持】

ご存知のように我が日本は皇室をの永きに亘り万世一系の血筋と伝統王朝です。しかし平成の世になってが破壊されようとしている。先日「有識者会議」は、皇室典範をという報告書を首相に提出した。報立を目指そうと画策している。皇室人の人間による、たかだか1年足ら方に関わる重大な問題を強引に決め



から2665年の間、継承されてきでは計り知れないものがある。しかし、世界に類を見ない悠久の歴史と伝統を現代人の愚かな論理で、いとも簡単に破棄しようとしているのが「憂識者会議」の答申に他ならない。彼らは皇室典範を改悪することによって万世一系で継承してきた歴史と伝統を破壊し、皇統の断絶を謀ろうとしているのだ。我々は普通の日本人として、有識者会議の答申に異を唱え、この暴挙を看過してはならないと痛感する。

持つ世界唯一の国で、皇室は125代を連綿と繋いできた世界最長最古のこの世界に類を見ない古き良き伝統首相の諮問機関である「皇室典範に改悪し、女性・女系天皇を容認する告書を受けた首相は通常国会での成問題に些かの見識も無い、僅か10ず20回程度の会合で、国家のありようとしているのだ。神話の時代た歴史や伝統は、現代の価値観だけ

有識者という名の欺瞞 有識者会議のメンバーの名前を眺めてみると、これは一体何の集まりなのかと訝しく思う。悪名高い経団連会長や有名大学名誉教授、前・元東大総長や元最高裁判事など錚々たる名が見えるが、一人として皇室の歴史と伝統を研究したものがいなければ、歴史を専門に扱うものもおらず、ロボット工学を専門とする座長の吉川弘之・元東大総長に至っては「皇族の意見を聞くつもりはない。(皇族の)意見を聞くのは憲法違反だ」との方針を表明しており、果たしてこの有識者会議なるものに皇統・皇室の在り方を論じる資格があるのか甚だ疑問に思う。確かに会議のメンバーは、各々の専門分野においては一家言を持っているようだが、皇室の問題においてはさしたる見識を持っていないのが実情であり、有識者とは名ばかりで、国民の目を眩ますまやかしてあり、欺瞞であると言っても過言ではない。女系天皇容認を推し進めようとする名ばかりの有識者会議は、皇室典範を変え、さらに皇室の方々のご意見を無視し、天皇家のルールを自分たちの手で変えようとしているのだ。無知な人間の愚論によって出された報告書を基に、國體の護持に関わる重大な問題を強引に決めてしまおうとする国会の暴挙を座視したら、子々孫々の代まで禍根を残すこととなる。

女性天皇と女系天皇の相違 女性天皇と女系天皇の違いを申し述べる前に、皇位継承の原理である万世一系の皇統とは何かをご理解戴きたいと思う。万世一系の皇統とは、今上天皇 昭和天皇 大正天皇 明治天皇…… 懿徳天皇 安寧天皇 綏靖天皇 神武天皇という形で、歴代天皇の父、その父(祖父)、そのまた父(曾祖父)と代々父親を遡っていくと(途中10代8名の女性天皇がおられますが)必ず初代の神武天皇に行き着くという継承の在り方である。これに対して、子 母 母……母 母 母というように、母親を遡って起源を辿る捉え方が、本来の意味での女系の継承となる。しかし有識者会議の報告書やマスコミなどは、父もしくは母のどちらかを都合よく辿っていくと、どの世代かで天皇に辿り着くことを女系と称しているようだが、それは女系でもなく「皇統外」と呼ぶべきである。結論を言えば皇統を継承する女性天皇は容認できるが、皇統外の女系天皇は断じて容認できないということである。

有識者会議のいう第一子優先と女系天皇を容認するとなると、畏れ多い例えであるが、仮に愛子様か田中さんという民間人とご結婚なされ、第一子に女兒をご出産されたとする。やがてその女兒が天皇となられ鈴木さんという民間男性とご結婚され、第一子に女兒が誕生すると、その女兒が天皇となられるわけである。そしてそのお方が高橋さんという民間男性とご結婚され……。もうお気づきのことと思うが、ここまで来れば2600年以上も続いた天皇家の歴史と伝統と文化が破壊され、最終的には天皇家の消滅に繋がりがかねない「由々しき事態」となってしまう。考えたくないことだが、有識者会議のメンバーと、その報告書を基に通常国会での審議入りを目指す首相は、敢えて「由々しき事態」を招こうとしているのではないだろうか……。

何故皇族方のご意見を伺わないのか 有識者会議や政府関係者や宮内庁が、当事者である皇族方のご意

見をなぜ伺おうとしないのか奇々怪々である。前述の吉川座長は、女系天皇の容認について異議を唱えられた三笠宮寛仁親王殿下のご意見を「どうということはない」と一蹴した上で「(皇族から)意見を聞くことは憲法に反する」とし、「仮に皇族が意見を述べられても会議の議論に反映することは無い」と明言している。だが憲法第4条は、天皇が憲法の定める国事行為のみを行い、それ以外の国政上の権能を持たないことを定めただけである。したがって当事者である皇族の方々が皇位継承のあり方について個人的な見解を述べられたり、有識者会議や政府から意見を求められ発言したからといって何ら問題はない筈だ。事実、現行の皇室典範には「皇位継承の順序の変更」や「皇族の身分の離脱」などについては皇室会議を経ることとなっている。「皇位継承のルール」の変更について皇族方の意見を聞かないということは、当事者である皇族の方々の知らないところで勝手にルールを変更してしまおうとする暴挙であって断じて許すことはできない。

ご皇室は世界の至宝である 我が日本国のご皇室は世界最古のご家系であり、神武天皇から125代、男系の皇統を連綿として守ってこられた。これは日本民族の宝であり、世界の至宝であると確信する。嘗て大正12年にアインシュタイン博士が来日した際、博士は「近代日本の発達ほど世界を驚かせたものはない。長い歴史を通じて万世一系の天皇を戴いて来たという國體を護持していることが今日の日本をあらしめたのである。世界は幾度も戦争を繰返してきたが、最後には戦争に疲れる時がくるだろう。この時人類は必ず世界の盟主を選ばなければならない時が来るに違いない。その世界の盟主は、あらゆる国の歴史を超越した、世界で最も古く且つ尊い家柄でなくてはならない。我々は神に感謝する・・・神が人類に日本という国を作っておいてくれたことに・・・。」と講演したことがある。アインシュタインは人類の盟主となるべきは、ローマ法王でもエリザベス女王でもなく、我が国の天皇陛下であると述べているのだ。ご皇室が世界の至宝であるのは、男系による皇位継承という万世一系の國體を護持してきたからに他ならない。神話の時代から受け継がれてきた世界の至宝である歴史と伝統を、破壊せしめんとする小泉純一郎の罪は万死に値するものである。 日刊ひぐらし//戸出蒼流

<< 皇紀2666年、年頭にあたり >>

昨年11月15日、紀宮清子内親王殿下の御成婚を祝う「奉祝記念記帳」のために初めて皇居に赴きました。私のような者が入って良いのだろうか?という不安な気持ちは、一步聖域に足を踏み入れた瞬間に感じた鳥肌が立つような感動によって一掃されていました。お祝いに訪れた老若男女の人の群れを見て日本に生まれて良かった。日本人として生まれて良かったと心から感謝しました。

そして本年1月2日、同志の皆様方とともに一般参賀にも参列させて頂きました。凜とした厳粛な空気の中、陛下の御姿を目にした時には心の底から熱いものがこみ上げてきて、しばらく声も出せない状態でした。「新しい年を共に祝うことを誠に喜ばしく思います。年頭にあたり、国民の幸せと世界の平安を祈ります」という陛下の御言葉を拝聴した後は、目頭が熱くなりながらも「天皇陛下万歳!」と大きな声で言うことができました。このような素晴らしい経験ができた事は、護國青年會議の皆様のお配慮の賜物と深く感謝致しておりますと共に、議長を始めとする護國青年會議の皆様が永年続けてこられた民族活動の素晴らしさを改めて痛感致しました。

私に出来る事は、常に第一線で指揮を執り、活動を続けてこられた議長の為に「日刊ひぐらし取材部」として活動現場の写真を撮る事ぐらいです。その写真を御覧になって戴いた時、少しでも活動現場の雰囲気伝わります、一日も早く第一線に復帰して戴けたらと思う次第です。皆様の邪魔になる事も多々あるかとは思いますが、時間の許す限り参加させて頂きたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。 取材部//加藤浩司

虚しい事とは承知しながら、今年こそは日本中で明るいニュースが聞ける様にと願っては見ますが聞こえてくるのは政治家の不正や幼児の虐待等嫌な事件ばかりである。しかしこれが日本の実情であり、少し前のアメリカと同様に安心して街を歩けなくなってしまった。昔は近所同士声を掛け合い、助け合った人情溢れた温かい国であったのに何時の間にか他人に無関心となり、冷めた民族になってしまったことを非常に残念に思います。しかし護國青年會議の皆様方を拝見していると多忙の中にあっても遠方より集い、熱き血潮で日本の為に活動されています。国民が少しでも皆様と同じ様な気持ちを持ってくれば日本の将来に展望が開けることと確信します。私も些少でも国家の為に役に立てればと日々精進していく所存です。 取材部//小杉雄一

最近暗いニュースばかりが取り上げられるが、そんな世情だからこそ「新しい風」に希望を託したくなるのが人の常である。「改革」最近良く耳にするが、まるで「断行すれば状況が良くなる」、そんな錯覚をしがちだが、国民の暗い気持ちを逆手に取った首相の言葉のマジックに過ぎない。そして今、首相の言う改革によって日本の歴史と文化が損なわれようとしている。人間とは愚かな生き物で欲望を満たす為に犠牲を払い、失って初めて事の重大さと大切さに気付く・・・、我々は事の本質を見極め、変えなければいけない事と、後世に亘って残さなければならない事を理解し、その意思を不抜けた政治家どもに示していかなければならないと切に思います。 編集部//秋山慎一郎